

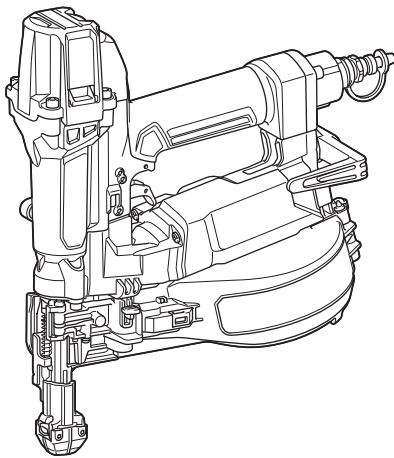
Makita

取扱説明書

41mm

高圧エアビス打ち機

モデル AR412HR



このたびは41mm高圧エアビス打ち機をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本製品の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただき、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願いいたします。

なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。



もくじ

はじめに

主要機能	2
安全上のご注意	3
各部名称	7
標準付属品の確認	7
別販売品のご紹介	8

ご使用前の準備

使用前に知っておいていただきたいこと	10
--------------------	----

使い方

トリガロックの操作方法	12
ビスの入れ方	13
ドライバビットの交換	15
基本操作	21
・安全装置の確認	21
・ビス残容量お知らせ機能	22
・ビスの打ち込み方法	23
・アジャスタ（打ち込み深さ調整）の操作方法	25
・ワンタッチ深さ切替レバーについて	26
・連結シートの切り方	26
応用操作	27
・モードの切り替え	27
・フックの使い方	28
・ノーズアダプタ（ロング）の使い方	29
使用後の取り扱い	30
・作業後の保管	30

保守／点検

お手入れ	31
故障かな？と思ったら	34

高圧エアビス打ち機 保証書……………裏表紙

はじめに

主要機能

主要機能		モデル	AR412HR
使用空気圧力		1.76 ~ 2.26 MPa (18 ~ 23 kgf/cm ²)	
使用可能ビス	ビス径	木下地	φ 3.8 mm、φ 3.9 mm
		鋼製下地	φ 3.5 mm
		長さ	25 mm、28 mm、32 mm、41 mm
装てん本数		シート連結：100本	
使用オイル		タービン油 VG32	
安全装置		コンタクトアーム方式	
打ち込み調整		ダイヤル式 (調整幅 5.5 mm)	
ビス送り機構		フィードピストン方式	
本製品寸法		長さ 282 mm × 幅 115 mm × 高さ 311 mm	
質量		1.9 kg	
使用エアホース※		マキタ高圧エアホース 内径φ 6.0 mm、長さ 30 m 以内	

- ・ 改良のため、主要機能および形状などは変更する場合がありますので、ご了承ください。
- ※内径φ 4.0 ~ 5.0 mm のホースをご使用の場合、材料や使用環境によってはビス打ちできない場合があります。




用途

建築内装の鋼製下地材 (0.8 mm 以下) および木下地材の石こうボード張り作業

安全上のご注意

- ・ ご使用前に、「取扱説明書」と「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、正しく使用してください。
- ・ 感電、火災、重傷などの事故を未然に防ぐために、この「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ・ お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- ・ 他の人に貸し出す場合は、いっしょに取扱説明書もお渡しください。

注意文の **警告** ・ **注意** ・ **注** の意味について


ご使用上の注意事項は  **警告** と  **注意** ・  **注** に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

警告

：誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

注意

：誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお  **注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注

：製品および付属品の取り扱いなどに関する重要なお注意。

⚠ 警告

1. ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
 - ・ 本製品の取り扱い知識が不十分な場合、事故の原因になります。
2. 次のときは、本製品を使用しないでください。
 - ・ 事故の原因になります。
 - 疲れているとき、身体が不調なとき。
 - 酒類や薬物を飲んで正常な操作ができないとき。
3. 使用の際は、必ず保護メガネおよびヘルメットを着用してください。
 - ・ ビスを連結しているプラスチックや、打ち損じのビスが目に入ると危険です。作業中は作業者および周りの人も保護メガネ・ヘルメットを着用してください。
4. 発射（排気）音や排気エアから耳を保護するため、防音保護具を着用してください。
5. 作業環境に応じて、安全靴を着用してください。
6. 作業環境は整理整頓を行い、足元に注意してください。
7. 近くに人がいないことを確認してから作業を始めてください。
 - ・ 打ち損じビスやビスの連結片などが当たりけがをする原因となります。
8. 指定のビットを使用してください。
 - ・ 指定のビット以外のものを使用すると、故障やビス詰まりの原因になるだけでなく、思わぬ事故や施工上の欠陥になる場合があります。
9. エアホース接続の際、次のことを厳守してください。
 - ・ コンタクトアームに触れたり、対象物に当たった状態にしない。
 - ・ 射出口を人に向けてない。
10. ビスを装てんする前に、エアホースを接続し、次のことを確認してください。
 - ・ エアホースを接続しただけで、本製品が作動しないか。
 - ・ エア漏れや異常音を発することはないか。
 - ・ 上記のような異常が発見された場合は、ただちに使用を中止し、お買い上げの販売店、または当社営業所まで、点検・修理をお申し付けください。
11. 安全装置（コンタクトアーム）が正常に作動するか確認してください。正常でない場合は、絶対に使用しないでください。
 - ・ ビスを装てんする前にエアホースを接続し、次のことを確認してください。
 - ・ トリガを引いただけで、作動音がする。
 - ・ コンタクトアームを対象物に押し付けただけで作動音がする。
 - ・ 上記のような異常が発見された場合は、ただちに使用を中止し、お買い上げの販売店、または当社営業所まで、点検・修理をお申し付けください。
12. 指定のビスを使用してください。
 - ・ 指定のビス以外のものを使用すると、故障やビス詰まりの原因になるだけでなく、思わぬ事故や施工上の欠陥になる場合があります。
13. 連結ビスの確認を行ってください。
 - ・ 使用前に連結ビスが変形していないか、絡まっていないか確認してください。異常を感じる連結ビスが発見された場合、絶対に使用しないでください。
14. 動力源は圧縮空気を使用してください。
 - ・ 圧縮空気以外のガス（プロパン、アセチレン、酸素など）を用いると爆発する恐れがあります。

⚠ 警告**15. 使用圧力範囲でご使用ください。**

- ・ 本製品の圧力範囲は 1.76 ~ 2.26 MPa (18 ~ 23 kgf/cm²) です。この範囲内で使用してください。また、2.26 MPa を越えた圧力で使用すると、破損、破裂により人体へ損傷を与える危険性があります。
- ・ 本製品は減圧弁を内蔵しています。減圧弁の特性上、コンプレッサ圧力の大小と本製品内圧力の大小が逆転します。

例)

コンプレッサ圧力 2.26 MPa のとき本製品内圧力 0.83 MPa 以下

コンプレッサ圧力 1.76 MPa のとき本製品内圧力 0.83 MPa

16. 射出口を人に向けたり、手足を射出口付近に近付けたりしないでください。

- ・ 誤って発射された場合に事故の原因になります。

17. 向かい合っただのビス打ち作業はしないでください。

- ・ 材料をビス先が突き抜れたり、打ち損じたビスが前の作業者に当たり、思わぬ事故を引き起こす場合があります。

18. 揮発性可燃物（ガソリン・シンナーなど）の近くでは使用しないでください。

- ・ ビスを打ち込むときの火花で火災を起こす恐れがあります。

19. トリガに指をかけたまま持ち運んだり、手渡しなどをしないでください。

- ・ 誤って発射した場合に事故の原因になります。

20. エアホースをつなぐときは、トリガに指をかけないでください。

- ・ 誤って発射された場合に事故の原因になります。

21. 本製品を落とす、ぶつける、たたくなどをしないでください。強い衝撃を与えた場合は、本製品に破損や亀裂がないか、また安全装置が正常に作動するかを確認してから使用してください。

- ・ 本製品内部には圧縮空気が充てんされており、破損や事故の原因になります。

22. 次の場合は、トリガをロックしエアホースをはずしてください。

- ・ 使用しないときや作業を中断するとき
 - ・ ビスを装てんするとき、また取り出すとき
 - ・ 打ち込み深さ調整や、ビス詰まりを直すとき
 - ・ 持ち運ぶ場合や手渡しするとき
 - ・ 本製品の調整または点検を行うとき
 - ・ 修理するとき
- 誤ってビスが発射された場合、事故の原因になります。

23. エアホースを持って、本製品を吊らないでください。

- ・ 人体に接触し、思わぬ事故が発生するばかりか、本製品の落下による損傷の原因となります。

24. 足場の安全性を十分に確認してください。

- ・ 足場を利用して作業する場合、転落することのないように十分に安全を確保するようにしてください。

25. 高所作業の場合、エアホースを固定してください。

- ・ 本製品が落下すると、歩行者や他の作業者に危険がおよびます。落下を防ぐため、エアホースを固定してください。

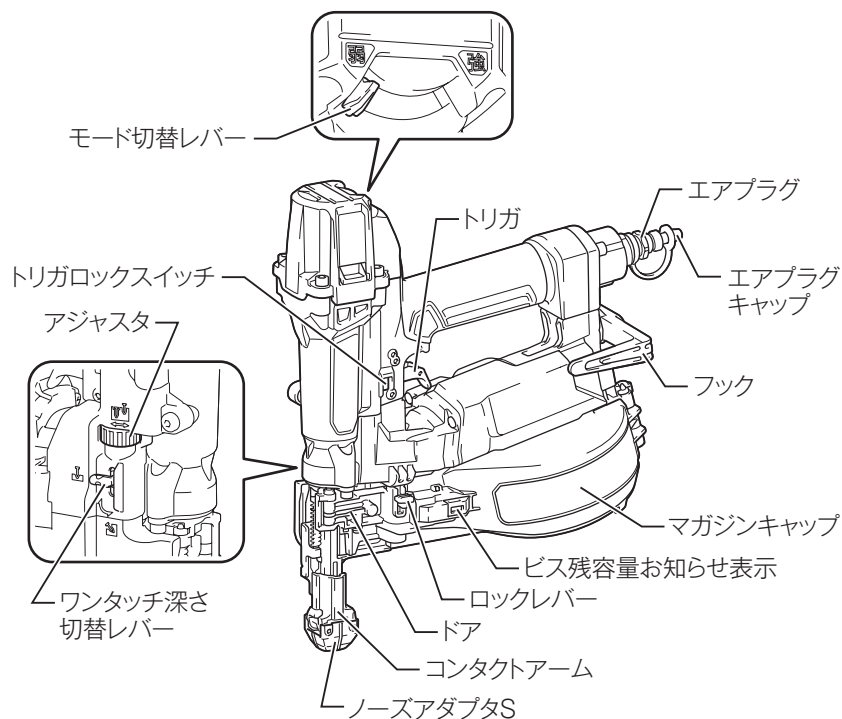
⚠ 警告

26. 傾斜面（屋根など）での作業は、下から上に向かって作業してください。
 - ・ 下に向かって作業すると、足を踏みはずす場合があります。
27. 使用中に異常を感じたら、すぐに使用を中止してください。
 - ・ 異常を感じた場合は、ただちに使用を中止し、お買い上げの販売店、または当社営業所まで、点検・修理をお申し付けください。
28. 作業後は必ずエアホースをはずしてください。
29. 作業後は、必ずピスを抜き取ってください。
 - ・ ピスをマガジン内に残しておく、次に使用する際、誤って作動した場合に、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
30. 本製品を絶対に改造しないでください。
 - ・ 本製品は使用者の安全を考慮して設計製造されています。お客様の都合で改造したり、正規部品以外を取り付けて使用しないでください。

⚠ 注意

1. 裾や袖の締めりのよい服装をしてください。
 - ・ 袖口や裾の開いた衣服などで作業しますと、事故の原因になります。
2. 作業場は、いつも明るくきれいにしてください。
 - ・ 暗かったり、ちらかった所での作業は事故の原因になります。
3. 使用前に、部品が損傷していないか、ボルトがゆるんでいないかを点検してください。
 - ・ 不完全な機械を使用すると、事故の原因になります。
4. 作業する箇所に電線管やガス管などの埋設物がないことを確かめてください。
 - ・ 埋設物を損傷すると感電やガス漏れ事故の原因になります。
5. 射出口を確実に材料に当ててください。
 - ・ 確実に当てていないと、ピスがはね返り、事故の原因になります。
6. 作業中は、本製品に顔などを近づけないでください。
 - ・ ピスの上や木の節などに当たった場合、本製品が大きく反動し、けがをする原因になります。
7. 作業中に本製品の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合には、ただちに使用を中止してください。
 - ・ そのまま使用していると事故の原因になります。
8. 本製品およびコンプレッサは、空気充填のまま長時間直射日光に当てて放置しないでください。
 - ・ タンク内の高圧の空気がさらに高圧になり、事故の原因になります。
9. 本製品の握り部は常に乾かしてきれいな状態を保ってください。
 - ・ 握り部が滑りやすいとけがの原因になります。
10. いつも安全に能率よくご使用いただくために、定期点検をおすすめします。点検修理は、お買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所にお申し付けください。
 - ・ 修理の知識や技術のない人が修理しますと、事故の原因となります。

各部名称



標準付属品の確認

- ・ セフティゴーグル（保護メガネ）
- ・ 油さし（タービン油 VG32）
- ・ 六角棒スパナ 4
- ・ ドライバビット
- ・ プラスチックケース
- ・ ノーズアダプタL

別販売品のご紹介

- ・ 別販売品の詳細につきましてはカタログを参照していただくか、お買い上げの販売店、または当社営業所へお問い合わせください。

⚠ 警告

本製品の故障や事故をさけるため、必ず当社純正連結ビスをご使用ください。

- ・ 使用ビスは、必ず下記の部材適合表に合ったビスをご使用ください。不適切なビスを使用すると本製品の十分な性能が得られません。
- ・ ⊕ビット
No.2-137L
部品番号：A-74946
- ・ 高圧スリックホース（直径 6 mm、長さ 10 m）
部品番号：A-46280
- ・ 高圧スリックホース（直径 6 mm、長さ 15 m）
部品番号：A-56552
- ・ 高圧スリックホース（直径 6 mm、長さ 20 m）
部品番号：A-46296
- ・ 高圧スリックホース（直径 6 mm、長さ 30 m）
部品番号：A-46305
- ・ 連結ビス

材質 / 表面処理	連結	用途	長さ (mm)	胴径 (mm)	頭径 (mm)	型式	部品番号	梱包単位 (1箱)	
鉄 / ノックロム	コイルタイプ	木質下地	25	φ 3.9	φ 8.2	RS3925DC(アオ)	F-70814	4,000本入 (1巻)	
			28			RS3928DC(アカ)	F-70827		
			32			RS3932DC(ミドリ)	F-70830		
		41	RS3941DC(チャ)	F-70843					
		鋼製下地	25	φ 3.5		RS3525VC	F-70959		100本× 20巻× 2箱)
			28			RS3528VC	F-70962		
	41		RS3541DG			F-70113			

ビスと部材適合表

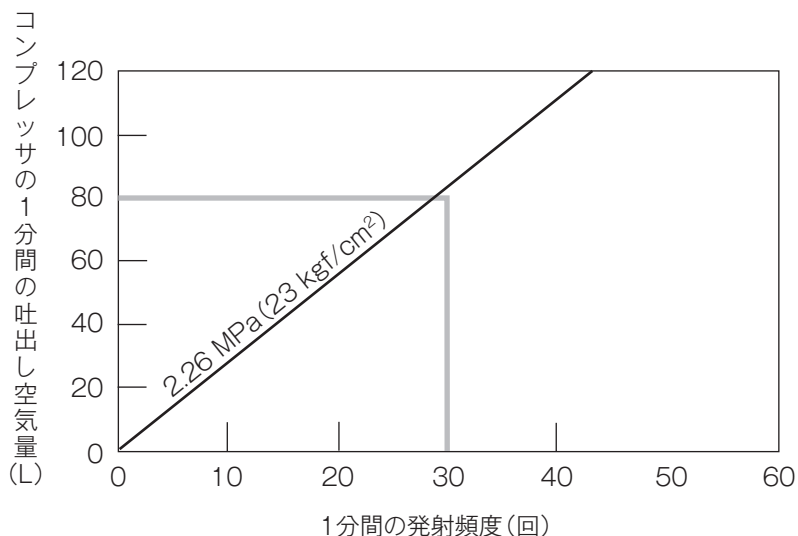
下地材	長さ L (mm)	石こうボードの厚さ (mm)					
		t9.5	t12.5	t15	t9.5+t9.5 (二重張り)	t9.5+t12.5 (二重張り)	t12.5+t12.5 (二重張り)
木下地	25	○	×	×	×	×	×
	28	○	○	×	×	×	×
	32	×	○	○	○	×	×
	41	×	×	×	○	○	○
鋼製下地 (厚さ 0.8mm 以下)	25	○	○	×	×	×	×
	28	○	○	○	×	×	×
	41	×	×	×	○	○	○

※部材の硬さや石こうボードの種類によっては、十分な打ち込みができない場合があります。

使用前に知っておいていただきたいこと

コンプレッサの選定について

- ・ 本製品を能率よく使用するために、コンプレッサの最高圧力と吐出し空気量は余裕のあるものを使用してください。コンプレッサを選定される場合は図を参考にしてください。
- ・ 図は本製品での発射頻度とコンプレッサの吐出し空気量の関係を示します。たとえば、発射頻度が1分間に約30回ですと、吐出し空気量80 L/min以上のコンプレッサが必要です。



エアホースの選定について

- ・ 高圧用エアホースを使用してください。
 - ・ 連続作業を効率よく行うためにエアホースは太く短いものを使用してください。
- ※エアホースの内径が6.0 mm、長さ30 m以下のエアホースを使用してください。

注

- ・ ビスの発射頻度に比べ、エアコンプレッサの吐出し空気量が少ない場合や、エアホースの内径が細いか、長すぎる場合は、能力が出ません。

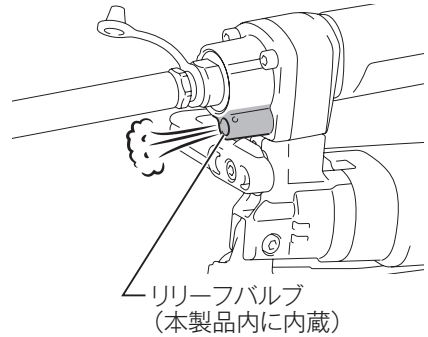
リリースバルブについて

本製品には、空気圧を調整する高圧用減圧弁を内蔵しています。

万一高圧用減圧弁が故障して、本製品の内圧が高まると、自動的にリリースバルブから音を発し、空気を排出して減圧します。

その場合は高圧用減圧弁の故障ですのでただちに作業を中断し、エアホースをはずして修理に出してください。

リリースバルブは本製品内に内蔵しています。



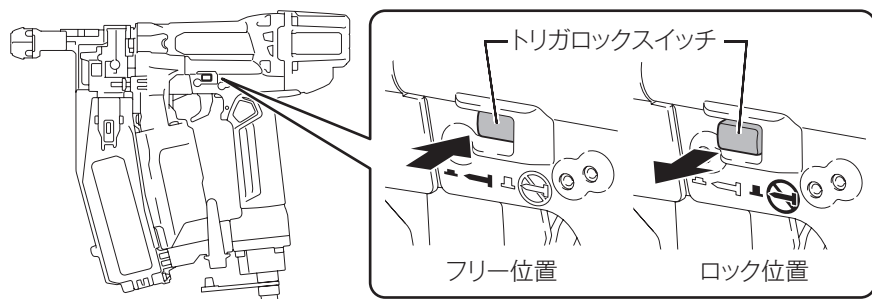
リリースバルブ
(本製品内に内蔵)

使い方

トリガロックの操作方法

本製品にはビス打ち作業をしていないとき、誤った操作による事故を防ぐために、トリガロックを装備しています。トリガロックとは、トリガをロックし、トリガを引けない状態にする機構です。

- ・ トリガロックスイッチをフリー位置にすると、トリガが解除され引くことができます。
- ・ トリガロックスイッチをロック位置にすると、トリガが固定され引けなくなります。



注

- ・ 本製品を使用しないときは、トリガロックスイッチをロック位置にして、トリガをロックしてください。
- ・ 作業時以外はトリガをロックして、エアホースをはずしてください。

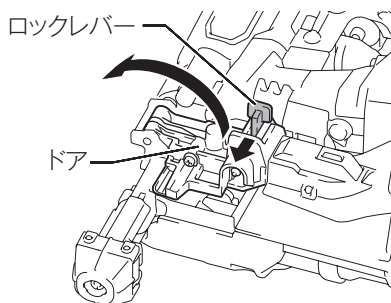
ビスの入れ方

⚠ 警告

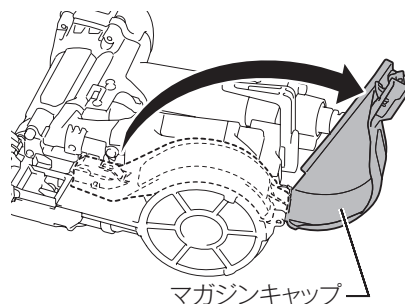
ビスを装てんする際は、必ずトリガロックをして、エアホースをはずしてください。

- ・ 誤って本製品が作動すると事故の原因になります。

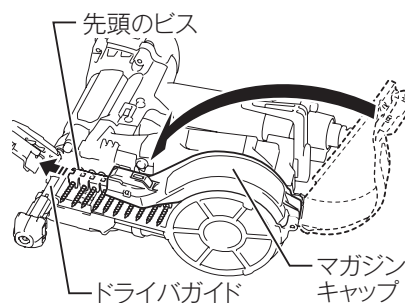
1. トリガをロックして、エアホースをはずします。
2. ロックレバーを押しながら、ドアを開きます。



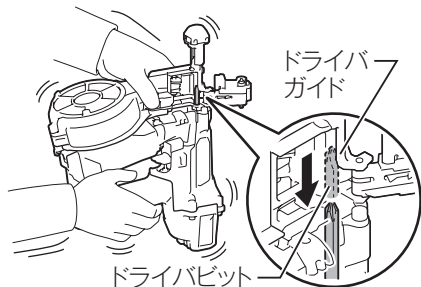
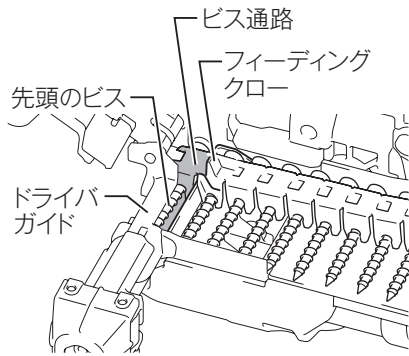
3. マガジンキャップを開きます。



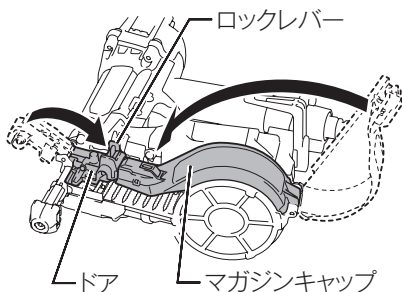
4. マガジンにビスを入れます。
5. 先頭のビスをドライバガイドまで引き出し、マガジンキャップを閉じます。



6. 先頭のビスをビス通路に完全に入れます。その際、フィーディングクロー（ビス送り爪）にビスが完全にセットされていることを確認してください。
 - ・ ドライバビットがドライバガイドまで降りて、ビスをセットできないときは、本製品を逆さま（ドライバガイドを上側）にした状態で必要に応じて軽く揺らし、ドライバビットを所定の位置に戻してください。



7. マガジンキャップを閉じて、ロックレバーが完全にかみ合うまでドアを閉じます。
 - ・ 最初にドアを閉じてから、マガジンキャップを閉じることもできます。



ドライバビットの交換

⚠ 警告

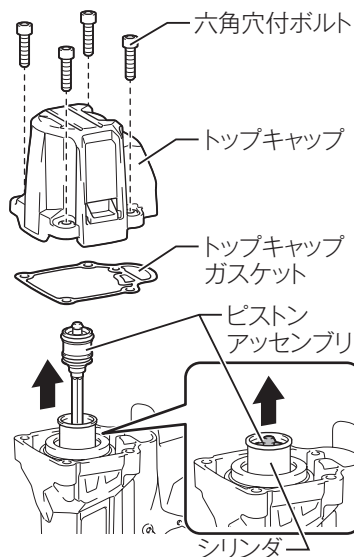
ドライバビットを交換する際は、必ずトリガロックをして、エアホースをはずし、装てんされているビスをすべて抜き取ってください。

⚠ 注意

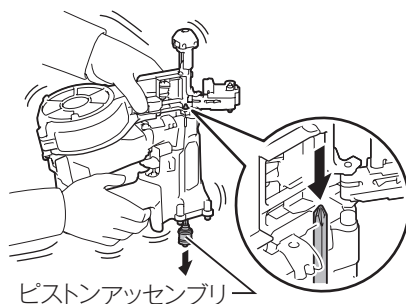
細かい部品があるので紛失しないように注意してください。
内部構成部品に砂やホコリが付着しないよう、きれいな場所で行ってください。

ドライバビットの取りはずし方

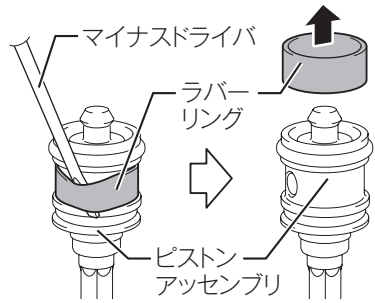
1. トリガをロックして、エアホースをはずします。
2. 装てんされているビスをすべて抜き取ります。
3. 付属の六角棒スパナで六角穴付ボルトを4本ゆるめて、トップキャップを取りはずした後に、ピストンアッセンブリを取りはずします。
 - ・ トップキャップガスケットが一緒にはずれた場合は、変形させないように注意してください。



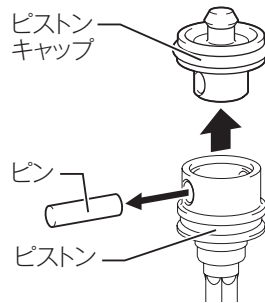
- ・ ピストンアッセンブリがシリンダ内に残っている場合は、本製品を逆さま（ドライバガイドを上側）にした状態で必要に応じて軽く揺らし、下から出てきたピストンアッセンブリを抜き取ってください。



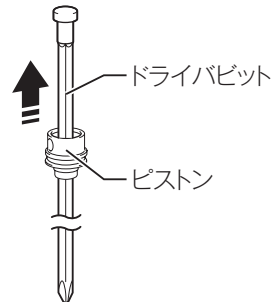
4. 取りはずしたピストンアッセンブリから精密マイナスインドライバなどで、ラバーリングを取りはずします。



5. ピストンからピンを抜き取り、ピストンキャップを取りはずします。

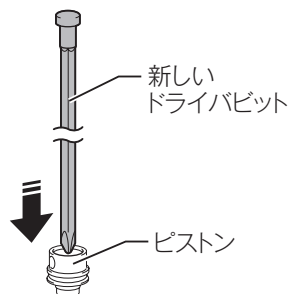


6. ドライバビットを抜き出して、新しいドライバビットと交換します。

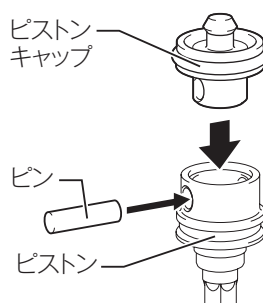


ドライバビットの取り付け方

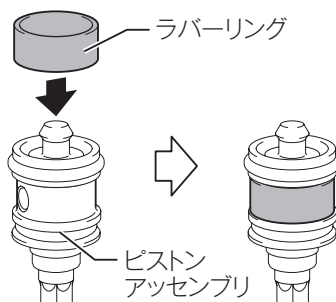
1. 新しいドライバビットをピストンに取り付けます。



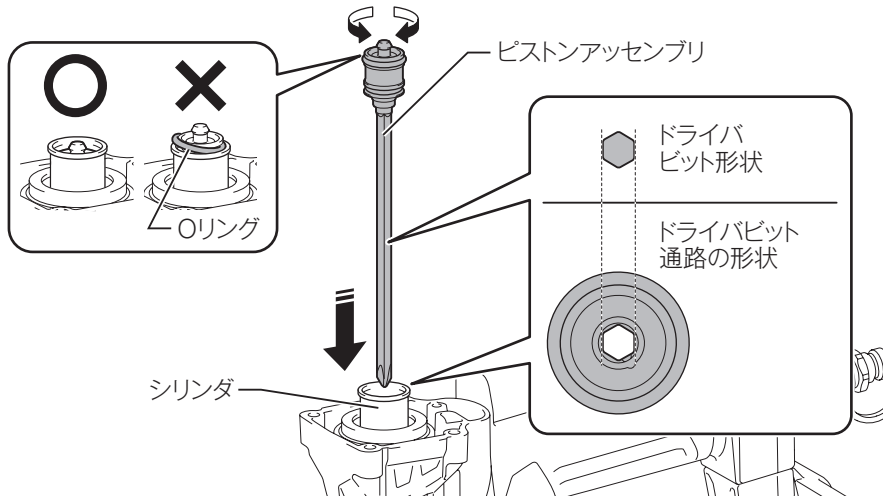
2. ピストンにピストンキャップを取り付けます。
次に、ピストンとピストンキャップの穴位置を合わせて、ピンを通します。



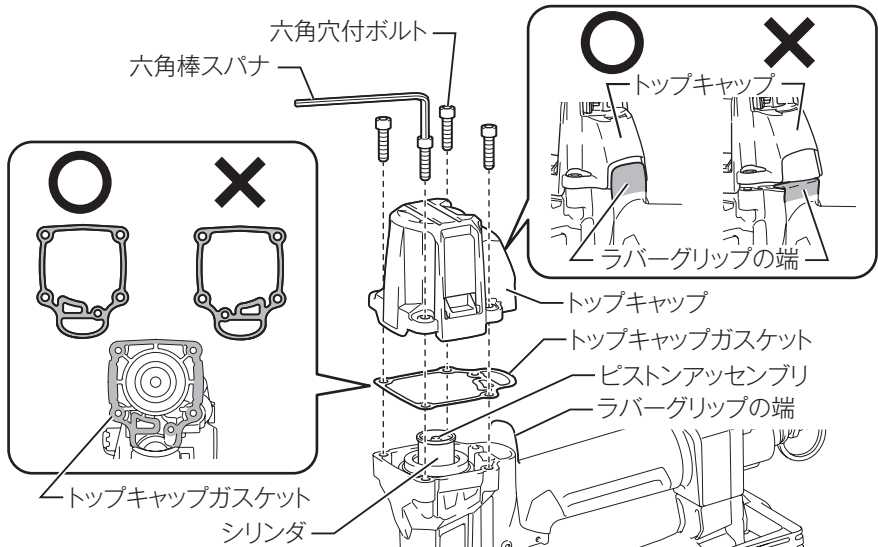
3. ピストンアセンブリにラバーリングを取り付けます。



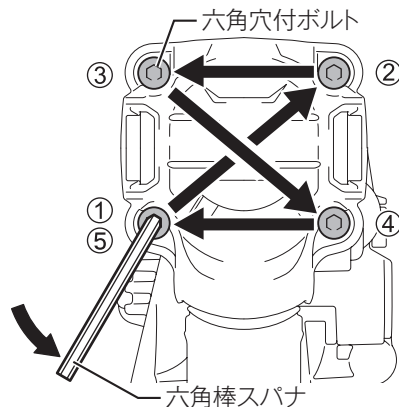
4. 本製品のドライバビット通路の形状とドライバビットの形状が合うように、向きをあわせて本製品のシリンダ内に差し込みます。
 このとき、ピストンアッセムブリのOリングがはみ出していないことを確認してください。



5. 本製品にトップキャップを取り付け六角穴付ボルトを4本取り付けます。
- ・ トップキャップガスケットの向きが正しく取り付けられているか確認してください。
 - ・ トップキャップがラバーグリップの端と干渉していないか確認してください。



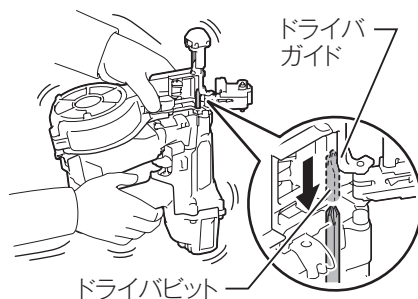
6. 六角穴付ボルトを六角棒スパナで、矢印の順に（①～⑤）締めてください。
 ※規定の締め付けトルクは 5 ～ 7.5 N・m です。



ドライバビットの交換作業が終了しましたら、本製品に異常がないか十分確認してから、ビス打ちを開始してください。

注

- ドライバビットがドライバガイドまで降りて、ビスをセットできないときは、本製品を逆さま（ドライバガイドを上側）にした状態で必要に応じて軽く揺らし、ドライバビットを所定の位置に戻してください。



エアホースの接続

⚠ 警告

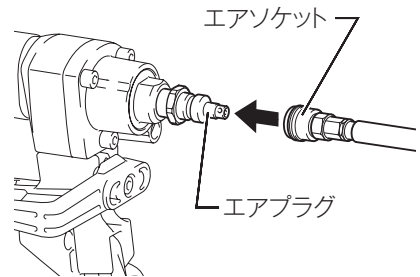
必ずトリガロックをしてください。

- ・ 誤って本製品が作動すると事故の原因になります。

コンタクトアームに触れないでください。また、コンタクトアームを押し上げた状態にしないでください。

射出口を人に向けないでください。

トリガをロックし、本製品のエアプラグにエアホースのエアソケットをしっかり差し込んでください。



注

- ・ エアソケットをエアプラグにしっかり差し込んでいないと、不意にはずれて事故の原因になります。

基本操作

安全装置の確認

⚠ 警告

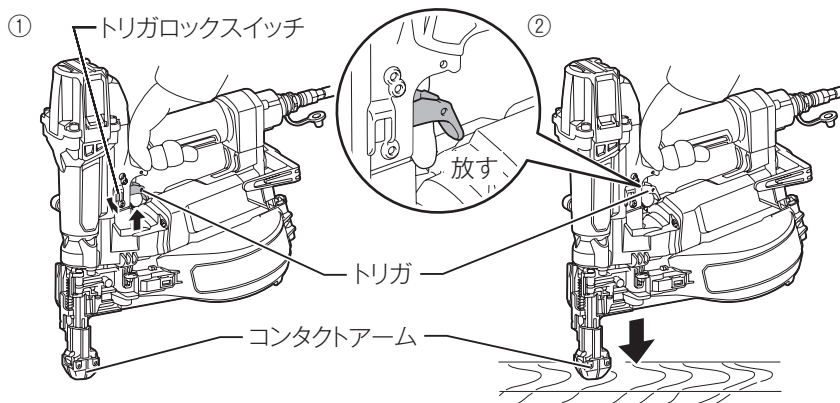
安全装置に異常がある場合は使用しないでください。

- ・そのまま使用すると事故の原因になります。

本製品にはビス打ち作業をしていないとき、誤った操作による事故を防ぐために、安全装置を装備しています。

ご使用前に安全装置が正常に作動するか、確認してください。

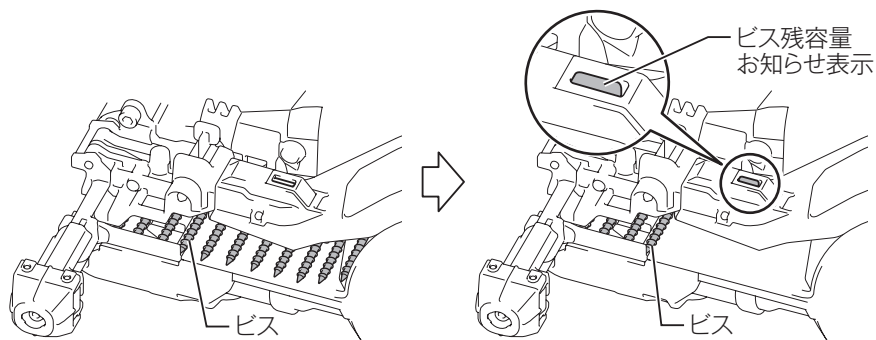
1. 作業前に本製品にビスが装てんされていないことを確認します。
2. 本製品にエアホースを接続します。
3. トリガのロックを解除します。
4. 次の操作をして、本製品が作動しないことを確認します。
 - ①トリガを引いただけで作動しないこと。
 - ②トリガから指を放し、コンタクトアームを木材などに当てただけで作動しないこと。



このとき、本製品が作動する場合は、安全装置が異常です。

ビス残容量お知らせ機能

ビスの残量が6～7本以下になると、ビス残容量お知らせ表示が「赤」に変わり、作業者にネジの残量が少なくなったことをお知らせします。



ビスの打ち込み方法

⚠ 警告

鋼板に直接打ったり、直接トタンなどを取り付ける作業はしないでください。

- ・ 事故の原因になります。

使用空気圧 1.76 ~ 2.26 MPa を必ず守ること。

一度打ったビスの上に、再度ビスを打ち込まないでください。

⚠ 注意

本製品は釘打ち機とは異なり、十分な押し付け力が必要です。

押し付け力が不足しますと、ビス浮きやカムアウトが生じます。

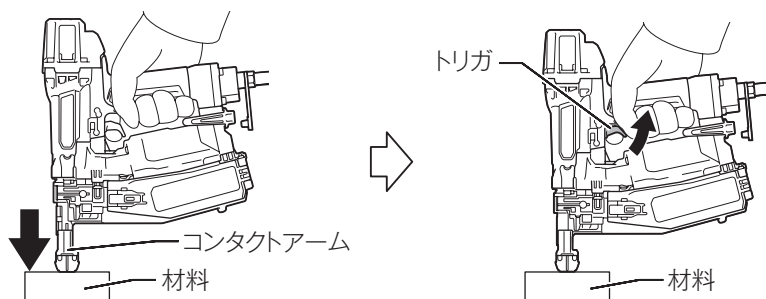
射出口の先端を必ず対象物に直角に押し当てて打ち込んでください。

確実に押し付けて打つために、単発打ちでの使用をおすすめします。

■ 単発打ちの操作方法

コンタクトアーム先端を打ち込み材料に押し当てた後にトリガを引く操作で、ビスを 1 本のみ打つ操作方法。

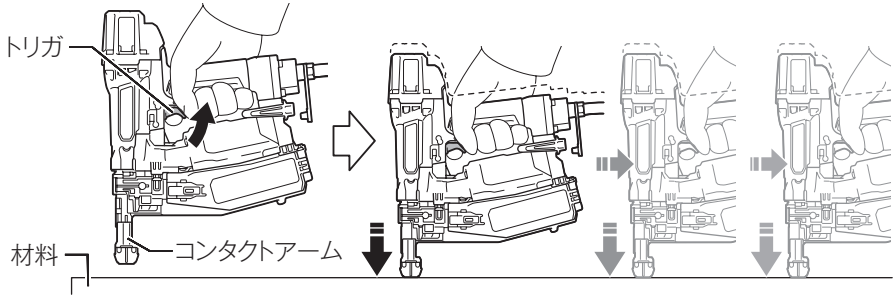
1. コンタクトアームを打ち込み材料に当てます。
2. コンタクトアーム先端をしっかりと押し付け、トリガを引いて打ち込みます。
3. ビスが完全に締め込まれたらトリガを放してください。



■ 連続打ちの操作方法

トリガを引いた状態で、打ち込み材料にコンタクトアーム先端を打ち当てる操作を繰り返すことで、連続にビスどめ作業ができる操作方法です。

1. トリガを引いたまま、打ち込み材料のビスどめしようとする箇所コンタクトアーム先端を打ち当てます。この操作を繰り返すことで連続打ち作業ができます。



注

- ・ モータの回転が止まるまではトリガを放さないでください。トリガを早く放すと、ビス浮き、ビス送り不良の原因となるので、ご注意ください。
- ・ 単発打ちでトリガを引いた状態で、再度コンタクトアームを打ち込み材料に当ててもビスは打ち込み出来ません。続けて連続打ちする場合は、トリガからいったん指を放した後に、連続打ちの操作を行ってください。

アジャスタ（打ち込み深さ調整）の操作方法

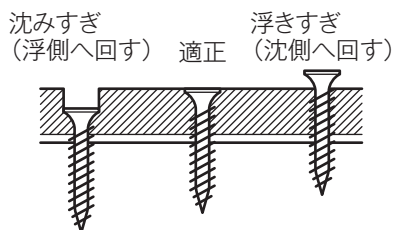
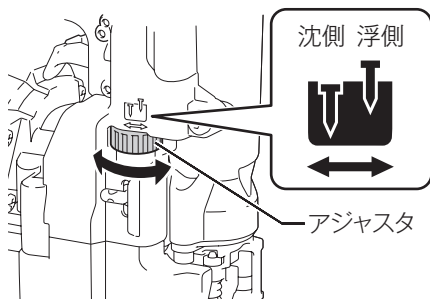
⚠ 警告

打ち込み深さ調整の際は、必ずトリガロックをして、エアホースをはずしてください。

- ・ 誤って本製品が作動すると事故の原因になります。

本製品はビスの打ち込み深さを調整する、アジャスタ機構を装備しています。

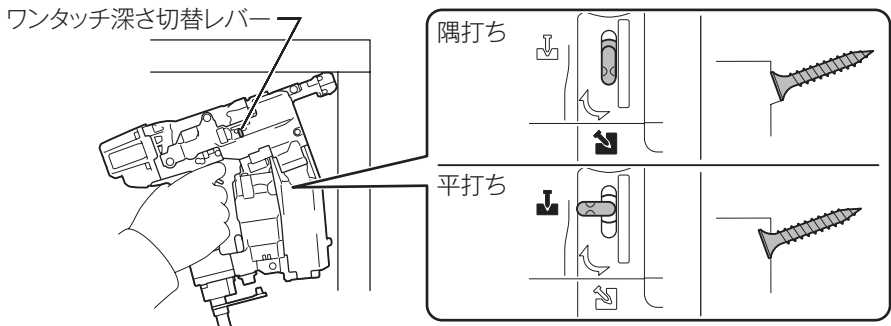
1. エアホースを接続し、トリガのロックを解除します。
2. アジャスタの調整（ビスの打ち込み深さ調整）を行う前に一度テスト打ちして、打ち込みたい深さを確認します。
3. トリガのロックを固定し、エアホースをはずします。
4. 連結シートを取りはずします。
5. アジャスタを回転させて、打ち込み深さを調整します。打ち込み調整幅は5.5 mmです（4クリックで約0.5 mmの調整ができます）。
6. 連結シートを装着します。
7. エアホースを接続し、トリガのロックを解除します。
8. 試し打ちをして、ビスの打ち込み深さを確認します。
9. ビスの打ち込み深さを再度調整する場合は、手順3から繰り返します。



ワンタッチ深さ切替レバーについて

隅打ちや、やむを得ず斜めに打つ場合に、打ち込み深さ調整のアジャスタを操作しなくても、ワンタッチ深さ切替レバーを作動させることで一時的にビスの沈み量を増やすことが可能です。

- ・ 斜め打ちを行う場合は、ワンタッチ深さ切替レバーを隅打ちマークに合わせます。
ビスを斜めに打つとビス頭がボードより沈みこみます。
- ・ 平打ちを行う場合は、ワンタッチ深さ切替レバーを平打ちマークに合わせます。
ビスを斜めに打ってもビス頭がボードより浮き出ます。

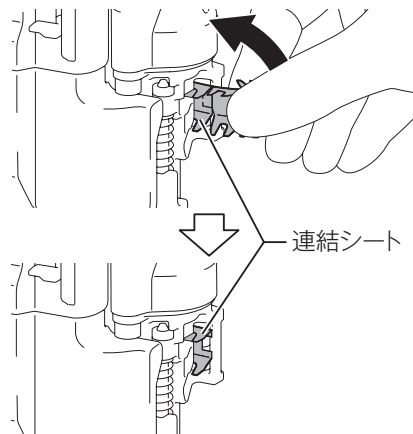


連結シートの切り方

⚠ 警告

連結シートを切る際は、必ずトリガロックをして、エアホースをはずしてください。

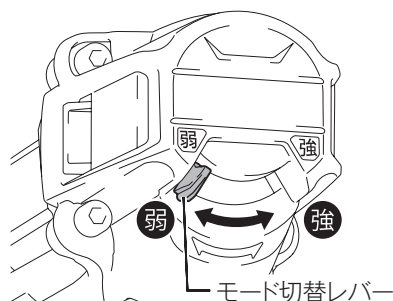
- ・ 連結ビスを使用していると、ドライバガイドより連結シートが出てきます。出てきた連結シートは矢印の方向に引きちぎってください。



応用操作

モードの切り替え

- 本製品には、打ち込み部材によって最適なビス打ち作業を行うためのモードの切り替え機構が装備されています。下記、「切替モード表」を目安にモード切替レバーの位置を合わせてご使用ください。モード切替レバーは「弱」または「強」の正しい位置（カチッと止まる位置）に合わせてください。「弱」「強」の中間位置で使用されますと、故障の原因となり、本来の性能が発揮されないことがあります。



〈切替モード表〉

下地材	ボード枚数	モード切替レバー位置	
		弱	強
木下地	1～2枚	◎	○
薄鋼板下地	1枚	○	◎
	2枚	×	◎

※ ◎：最適 ○：打込み可能 ×：打込み不可

注

- 薄鋼板下地+石こうボード1枚の条件において、切替えレバー「強」の位置では、ねじが空回りして薄鋼板下地材にしっかり止まらない場合があります。この場合には、ノーズアダプタLを使用するか、切替えレバー「弱」の位置でご使用ください。
- 一般用石こうボード1枚あたりの厚さが9.5 mm、12.5 mm、15 mmに適応します。
- 施工可能な鋼製下地の厚さは0.8 mm以下です。
- 必ず当社純正連結ビスをご使用ください。

フックの使い方

⚠ 警告

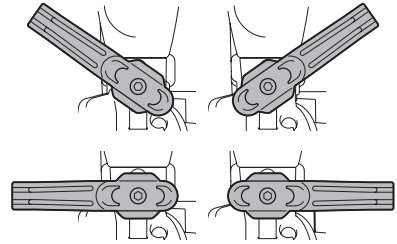
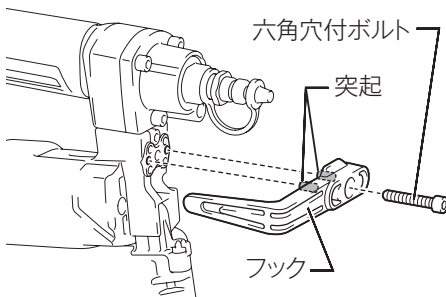
フックの位置を変える場合や、フック使用の際は必ずトリガをロックして、エアホースをはずしてください。

フックを取り付けるときは、ボルトをしっかり締めてください。

フックを腰のベルトなどにはけないでください。

- ・ フックがはずれて本製品が落下した場合、誤作動する恐れがあり、事故の原因になります。

- ・ フックは本製品を一時引っかけておくのに便利です。
- ・ フックは4方向に取り付け位置を変更できます。お望みの取り付け位置に変更してください。
- ・ 取り付け位置を変更するときは、六角棒スパナで六角穴付ボルトをはずし、フックの取り付け位置を変更した後、六角穴付ボルトでしっかり取り付けてください。



ノーズアダプタ（ロング）の使い方

⚠ 警告

ノーズアダプタ着脱の際は、必ずトリガをロックして、エアホースをはずしてください。

- ・ 誤って本製品が作動すると事故の原因になります。

下地材が薄鋼板下地や軟らかい木下地で、ねじが空回りする場合は、ノーズアダプタLをご使用ください。

ノーズアダプタLは打込量を少なくし、下地材への影響を軽減させることで仕上がりをより安定させたり、ビスの空回りを少なくさせたりする効果があります。

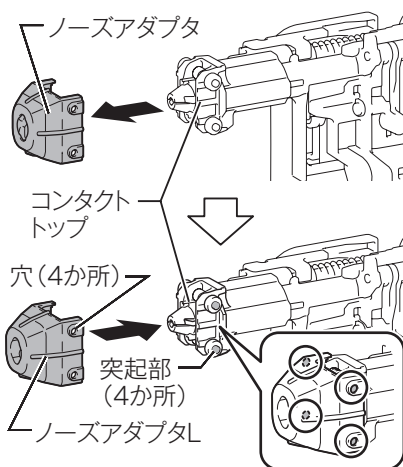
※ノーズアダプタLを使用しても効果を得られない場合は、モード切替レバーを「弱」にして使用してください。

■ ノーズアダプタLの取り付け

1. コンタクトトップに装着されているノーズアダプタを、親指で持ち上げるようにして取りはずしてください。

取りはずしにくいときは、ドライバガイドとノーズアダプタとのすき間にマイナスドライバなどを入れ、取りはずします。

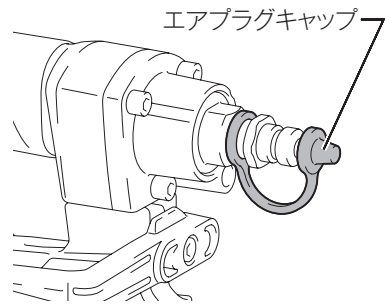
2. ノーズアダプタLの穴（4か所）をコンタクトトップの突起部に合わせて、しっかり押し込んでください。



使用後の取り扱い

作業後の保管

- ・ プラスチックケースに収納し、直射日光の当たらない場所に保管してください。
- ・ 本製品を使用しないときは、本製品内部に異物（ゴミ・ホコリ）が入らないように、エアプラグキャップを装着してください。



お手入れ

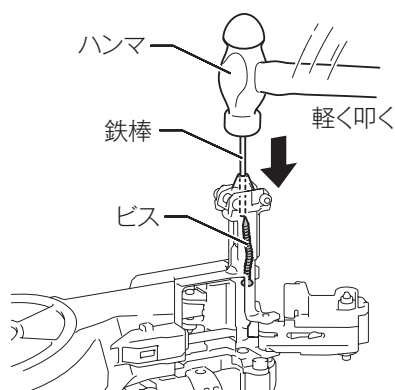
⚠ 警告

点検、整備の際は、必ずトリガロックをして、エアホースをはずしてください。

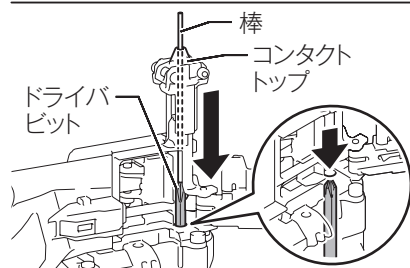
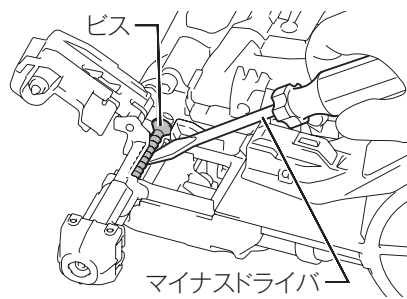
- ・ 誤って本製品が作動すると事故の原因になります。

ビス詰まりの直し方

1. トリガロックをして、エアホースをはずします。
2. ドアを開け、装てんされている連結ビスを抜き取ります。
3. 射出口に細い鉄棒を差し込み、ハンマで軽く叩きます。強く叩くと、鉄棒が挟まり、取れなくなる場合があります。

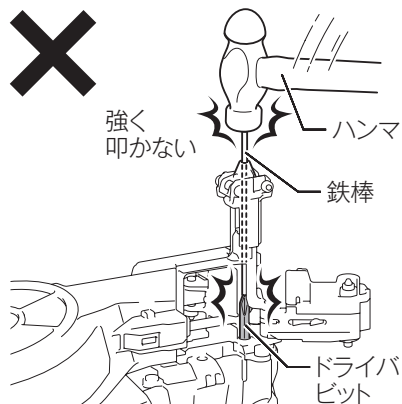


4. ドライバガイドの内部に詰まったビスをマイナスドライバーなどで取り除きます。
 - ・ ビスを除去した後、ドライバビットがビス通路に出ていないことを確認してください。
 - ・ ドライバビットが通路に出ていた場合は、コンタクトトップのビス排出口から棒を挿入して押し込んでください。
5. 除去作業が完了したら、再度、ビスを装てんしてください。



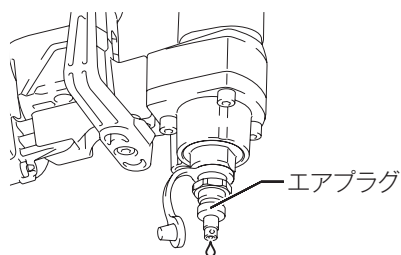
注

- 細い鉄棒で詰まったビスを叩くときは、ドライバビットを強く叩かないでください。ドライバビットの先端が破損し、ビス打ち不良の原因となります。



水抜き

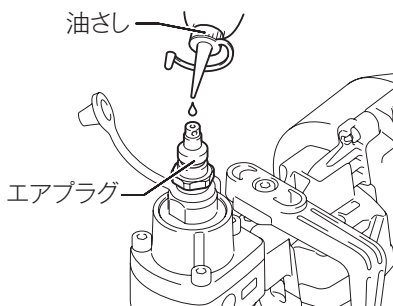
本製品のエアプラグをしばらく下に向け、本製品内部に残っている水分をできるだけ除去してください。



注油

本製品に付属している油さし（タービン油 VG32）を 10 滴エアプラグより注油してください。

指定外のオイルを使用すると、故障の原因となります。



本製品のお手入れ

- ・ 乾いた布か薄めた中性洗剤を付けた布できれいに拭いてください。
- ・ 本製品が、ホコリ・木屑・砂などで汚れている場合は、エアダスタで清掃してください。

注

- ・ 水洗いは絶対にしないでください。
 - ・ 本製品内部に水が入り、故障の原因になります。
- ・ ガソリン、ベンジン、シンナー、アルコールなどは変色、変形、ひび割れの原因となりますので使用しないでください。

故障かな？と思ったら

ご修理の際は

- ・ 修理はご自分でなさらないで、必ずお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。

株式会社 マキタ

愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502

TEL.0566-98-1711 (代表)

881H68-1

IWT